

1. 零戦54型について

敵国戦闘機のパワーアップや戦法の変化により零式艦上戦闘機もマイナーチェンジを余儀なくされたが、発動機である中島製栄エンジンの性能向上は限界に達していた。その為、やや直径が大きい性能に余裕の有る自社製金星エンジンに換装した機体が零戦54型である。これにより54型は52丙型と同程度の武装や装甲を持ちながらも初期の零戦にかなり近い最大速度や運動性を有することになった。但し僅か2機が製作されたところで終戦となった為、実戦には参加していない。

終戦間際に作られた為か本機の正式な図面は現存していない。本機のものとする写真がミリタリーエアクラフト誌に掲載されたときの衝撃は記憶に新しい。

2. 製作と塗装について

外観上最大のポイントで有るカウリングは童友社零戦の機首部分をプラ板及びエポキシパテでポリウムアップし、空気取入口もエポキシパテで作っています。集合排気管は1mmのアルミ管で新造しました。胴体はハセガワのもので、先に製作したカウリングとの接合部にエポキシパテを盛り、自然に繋がる様にしました。コクピットは完成後見えないので四角く切り抜いたのみ。生産ライン上の52丙型を流用した試作機と判断し、翼下面にロケット弾止め金具や翼内機銃ハッチのふくらみを追加し、52丙型に準じた武装を再現しました。20mm機銃はステンレス線に交換、13mm機銃は伸ばしランナーの先端を細くして両者の差別化を計っています。主脚取り付け部を約2mmずつ外側にずらし、内側の主脚カバーは削り取ってプラ板で新造しました。

塗装はラッカー系の明灰白色の缶スプレーを吹いた後、筆塗りにより上面をラッカー系の濃緑色で塗り分けました。社内試作ですので塗り分けパターンは三菱製のものとしました。カウリング・プロペラブレード・スピナー 機体内部もラッカー系の専用色です。見方識別色はエナメル系カラーを調合した黄橙色、主脚収納部にはエナメル系の青竹色を流しました。日の丸は白フチの広いハセガワ22型のデカールを使用しました。墨入れはグレーのガンダムマーカーを入手できたので従来の黒色のものと使い分けています。



前方より



後方より

3. 途中画像



童友社のカウリングをポリウムアップ。上面はエポキシパテ、側面は0.5mmプラ板。



ほぼ完成したカウリングをハセガワの胴体に取り付けたところ。左下はノーズコーンのヒートプレス原型。



翼下の武装やモールドを左右対称にするため、ゲージパーツを作成した。



集合排気管はカウリングに穴を開け、折り曲げた1mmアルミ管を差し込んで接着している。